## 特集 グローバル人材の育成 世界という名の舞台へ



熊倉隊員が活動する学校では、みんなでアクセサリー 作りに挑戦。子どもたちの自立支援の一環でもある

上げた。 本は世界の中で生かされているの衝撃―。苦労も多かったが「、日 元鹿児島に戻り貿易会社を立ち でのサラリーマン生活を経て、 かもしれません」。帰国後は大阪 しかし、 と実感したんです。 青年海外協力隊鹿児島 今の私はない

家庭にできるだけ負担をかけな は協力隊事業が地元であまりに県OB会会長に就任後、弓場さん 地元の自治体や企業などを駆け 「鹿児島の若者たちに、私の人生 知られていないことに気付く。 の転機にもなった協力隊につい は現場を見てもらう もっと知ってほしかった」。ま 地元の中高生を対象に ーツア 助成金を集めるために、 を企画。参加者の のが一番

倉百合子隊員(青少年活動)に出の子どもたちを支援している熊学校に行けない南スラウェシ州 淵綾隊員の活動を視察。異国のる伊東和希子隊員や保健師の 学校の福永梨々子さん。貧しくて てみたかったんです」。そう話す 味があって、自分の目で活動を見 そのほかにも、野菜栽培を指導す 隊の姿でした」と目を輝かせた。 のは、南さつま市にある鳳凰高等 「小学生のころから協力隊に興 「私があこがれていた協力

20回目を迎える、老舗スタスタディーツアーが実現。 そして多くの人の協力を得て、 回目となるマレーシア 0)

## 及していければしさの分だけ

《に成長した。

ハ〟を伝授。現地でより充実した体験談に基づいた〝途上国のイロ いる。 生活が送れるようサポ 隊 OB・OGがインドネシアの言って事前研修を行い、県内の協力 会で選考された子どもたち13人面接により、各自治体と実行委員 葉や文化はもちろん、自分たちの が参加した。出発前は2回にわた 年はインドネシアで実施。作文や これまで訪問した国は、 ベト ナムの5カ国。20 マレ トして ラオ

評価する。

参加者数の割合が全国

人口当たり

の協力隊 位を誇

した学生たちも大いに刺激を受 で奮闘する隊員たちの姿に、参加

の分だけ、これから発展していけて優しかったんです。その優しさ を務めた鹿児島県立加世田常潤だなって」と、この年のリーダー ばいいなと思いました」。 れない。でもみんなとても温かく 高等学校の脇佳ノ介くん。「僕た 所は違って 隊のネットワークを駆使して探 泊5日のホ ちが滞在した村は貧しい じ合えた。や している。「文化や住んでいる場 テイ先は、毎年弓場さんらが協力 また同州のビナバサ Ŕ っぱり同じ人間なん ムステイを経験。 身ぶり手ぶりで通 かもし

貢献)の一環として応援し続けて 性豊かな人材の育成や地域の 際協力を実体験するもので、 園茂樹課長も「本事業は、 島県観光交流局国際交流課の倉 いきたい」とエールを送る。鹿児 これからもCSR(企業の社会的 会えるのを楽しみにしています。 くましくなった子どもたちに出 長は「毎年、 式会社山形屋の時田光一秘書室 帰国後の報告会でた 、自ら汗水流して国「本事業は、実際に 国際

「また来るね」。インドネシアの人たちの優しさに触れた毎日だった

※鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊 鹿児島県OB会、財団法人鹿児島県国際交流協会。

保健師として、村の子どもた ちに手洗いの仕方を教える

援していければ」と意気込む

を担うグローバ

日本の地域、

そして世界の未来 ル人材―。この事



て、鹿児島の子どもたらもこの事業を通じる。弓場さんは「これか た。そのほかにも、海外 た。そのほかにも、海外 た。そのほかにも、海外 事業を立ち上げたり、 留学したり、 まな分野で活躍してい 医師として地元に貢献 ちに世界への扉を開い していたり…とさまざ

この事業の協賛企業の一つ、株

っ子たちの底力に期待したい。 業を通じて、´世界、を感じた薩摩

## 見てもらいたい協力隊の活動現場を

村の人たちから出迎えを受ける一行

「こんなに歓迎してもらえるなんて想像していなくて感激しました」

ルの到着ゲ れだけ有意義であったかが分か と、今回のスタディ 面の笑み。その表情を見て 前、どこか不安な表情で搭乗ゲ の子どもたちが現れた。 トをくぐっていった子も今は満 鹿児島空港— 夏休みの真っただ中、 「ただいま -トに、元気い他―。国際線タ ーツア 8月初旬 っぱ いる 週間 がど

を見るのが楽しみなんです」 「毎年、 子どもたちの目の輝き る。

事業」の発起人だ。毎年夏休みにる「鹿児島県青少年国際協力体験内の3団体※が協働で実施してい 弓場秋信さん。 目を細めながらそう話すのは、 が協働で実施してい、。1991年から県

**KAGOSHIMA** 

途上国の現場を肌で感じた子どもたちが今、アジアへのスタディーツアーを実施している鹿児島県20年にわたり、県内の中高生を対象に

たくましく羽ばたいている

地元の人との交流を行うこのプ場の視察、村でのホームステイや派遣し、青年海外協力隊の活動現 派遣し、県内の中 ログラム。過去19回、総勢202人 の中高生10数人をアジアに

る。 が参加して 地元の青

OB。今から約40場さんも協力隊 で支えてきた弓 ため、ずっと陰 国に送り出す から約40年

直面したのはそれ に渡った。現地で としてマレーシア 24歳の時に溶接隊員



May 2011 JICA'S World 22

地元の学校との交流 会では、空手のパフォ ーマンスなど日本文

23 JICA's World May 2011